

## 5 乳幼児健診（健康増進センター）における読書活動の取組

### (1) 健康増進センターの役割

- 赤ちゃんの体の発達に母乳やミルクが必要なように、赤ちゃんの言葉と心を育むためには、抱っこして話しかけてあげることが大事だと言われています。親の肌のぬくもりと愛情を感じながら、やさしく話しかけてもらう時間を持つことが、赤ちゃんの発育に不可欠な栄養素となります。

赤ちゃんは絵本を自分で読むことができませんが、親が読んであげることにより絵本を楽しむことができます。0歳児から絵本を媒体とした親子の触れ合いの時間を習慣として持つことは、子どもの情緒面、言語面、思考能力等の発達に大きく関与することが明らかになっています。そのためには、母親の心の安定が必要不可欠であり、母親同士が、仲間づくりをしながら子育てに関する学びや情報交換をするための場が必要です。

健康増進センターは、両親が絵本を通じて赤ちゃんに、楽しい時間を分かち合えるように赤ちゃんに絵本との出会いや、母親同士の出会いのきっかけとしての場を提供し、子どもの健やかな成長と発達を支援しています。

- 健康増進センターは、妊産婦や乳幼児を持つ保護者にとって、読み聞かせや絵本に触れる最初の公共施設です。保健師や司書が、読み聞かせや語りかけの大切さなどについて、機会をとらえ話すことは、保護者に対する子どもの読書活動の理解と関心の啓発となります。

健診に訪れる乳幼児の保護者対象のアンケートで、子どもに読み聞かせをした理由やきっかけを尋ねたところ、「保健師さんからすすめられた」「胎児の時から読み聞かせは胎教によいと聞いた」からとの回答がありました。健康増進センターは、保護者が子育てに関心のある時期に、読み聞かせの大切さなどを直接伝える機会と場を提供しています。

### (2) 現状と課題

先進国の子どもの読書離れと社会問題（家庭崩壊、親子関係の希薄化、子どもの表現力の低下など）との関連が指摘されていますが、1992年、世界に先駆けブックスタート※を実施したイギリスでは、各方面で大きな成果をあげています。日本では、出生数の減少、子育て情報を共有しあう仲間づくりの機会も少なくなりつつある昨今の情勢の中、野辺地町もまた母親同士の交流の機会が少なくなっている現状にあります。

野辺地町では、平成14年5月より、7ヶ月児相談で、ブックハローを開催しています。健診に訪れる乳幼児の保護者に「ブックハローの体験があるかどうか」のアンケート調査によると、「ある」36%、「ない」64%となっています。子どもの年齢が高くなるにつれて、記憶が低下することが推測できますが、印象に残らないことの理由の一つにブックスタートのように絵本のプレゼント等がないことも考えられます。絵本のプレゼントは、保護者が絵本を読んであげるきっかけとなり、読み聞かせは子どもの読書の入り口となります。今後、ブックスタートに拡充していく必要があります。

さらに、1歳6カ月児、3歳児健診などで、系統的・継続的に保護者に対して絵本の読み聞かせの大切さの理解を深めるため、発達段階に応じた絵本の選び方、絵本の紹介、絵本の読み方のアドバイス、親子対象の読み聞かせを実施するなどが望まれますが、乳幼児健診は、

過密なスケジュールのため時間を取れない状況にあります。また、読み聞かせボランティアが不足しているので養成が必要です。

乳幼児向け絵本の設置に関しては、「健康増進センターの絵本をもう少し充実させれば、ふだん図書館に行かない親子も本にふれることができると思う。」というアンケートの意見がありました。健康増進センターの絵本は、寄贈によるものと図書館から配本されたブックハローで紹介する図書が中心となっています。図書館からの配本冊数を増やすなど、健康増進センターの絵本の充実が望まれます。

### (3) 健康増進センターにおける具体的な取り組みの方向

- 家庭教育支援の一環として開催されている、子育てサロンやマタニティサロンにおいては、絵本の読み聞かせや紹介、講演会などを行い、読み聞かせの大切さや楽しさを伝えていきます。また、子育て情報誌においては、子育て情報とともに、読書情報なども提供し、子どもの読書活動の啓発に努めます。
- ブックハローを体験したことが「ある」とアンケートに回答した保護者に意識の変化について尋ねたところ、「絵本に興味を持つようになった」「絵本を読み聞かせるようになった」「絵本を買うようになった」「図書館で本を借りるようになった」「読み聞かせ会に参加するようになった」などの回答が103%（複数回答）ありました。さらに、子どもの笑顔や新しい発見に触れ、母親自身の心の安定や笑顔づくりに結びついています。ブックハローは、開催方法や講話内容等の見直しを図りながら、ブックスタートとして拡充に努めます。
- 家庭で絵本を選ぶ時の参考になるように、1歳6ヶ月児や3歳児健診などにおいても、子どもの年齢や発達段階に応じた絵本の選び方、絵本の紹介、絵本の読み方のアドバイスを掲載した冊子やパンフレットを作成し、提供していきます。
- 健康増進センターを利用する親子が、たくさんの乳幼児絵本に出会えるよう、図書館からの乳幼児絵本の配本を増やすなど、健康増進センターの絵本の充実努めます。



ブックハローの様子



(4) 重点施策と施策内容

## 重点施策

- ① 家庭教育推進事業の一環による子どもの読書活動の啓発  
・読み聞かせ会 ・読み聞かせ講演会 ・広報誌の発行
- ② 7ヶ月児相談でのブックハローからブックスタートへの拡充
- ③ 発達段階に応じた絵本リストの作成と提供
- ④ 健康増進センターの乳幼児絵本の充実  
・図書配本 ・家庭で眠っている絵本の活用



### ↓ 施策内容

施策・事業名	ねらいと内容	所管	状況
家庭教育推進事業	子育てサロン「ふわふわ」・マタニティサロン「はぐはぐ」においては、活動の中に絵本の読み聞かせや読書講演会などを取り入れるとともに、「子育てサポーターだより」で、読書情報の提供を行い、子どもの読書活動に関する啓発に努めます。	子育てサポートセンター 図書館	新規
ブックハロー	7カ月児相談時に、絵本を媒介としたコミュニケーションを勧めるとともに、親子に絵本の読み聞かせを行い、読み聞かせの楽しさを伝えます。今後、絵本の読み聞かせのきっかけとなるよう絵本などのプレゼントを行い、ブックスタート ※事業への拡充に努めます。	図書館 環境保健課 社会教育・スポーツ課	拡充
発達段階に応じた絵本リストの提供	絵本の紹介、絵本の読み聞かせのアドバイス等を掲載した読み聞かせガイドブックを作成し、7カ月児相談、1歳6カ月児健診、3歳児健診で配布し、発達・成長に即した絵本選びの支援をします。	図書館 環境保健課	拡充
乳幼児絵本の充実	図書館からの配本冊数を増やし充実を図ります。また、家庭で眠っているロングセラー絵本等の寄贈を募り、健康増進センターの蔵書として再利用を図ります。	図書館	拡充

### ※ブックスタートとは

ブックスタートは1992年に英国のバーミンガムで始まり、日本では2000年「子ども読書年」をきっかけに始まりました。ブックスタートは地域の保健センターで行われる0歳児検診の機会にすべての赤ちゃんと保護者にメッセージを伝えながらブックスタートパックに入った絵本を手渡す運動です。ブックスタートパックの中には、赤ちゃんにおすすめの絵本、赤ちゃんに絵本を楽しむためのイラスト・アドバイス集、おすすめの絵本リスト、コットンバッグ、よだれかけ、子育て支援情報、図書館利用登録用紙などが入っています。